



令和5年10月27日
佛教大学附属こども園

「仏教保育 11月のねらい」

精進努力

「小さな一歩」

園長 佐藤和順

日中は暖かく穏やかで、空は澄み渡り秋を感じる好季節となりました。園外保育を通して、どんぐりを拾ったり、紅葉を目にしたりと子どもたちはそれぞれの秋を楽しんでいます。

今月の保育の目標は「精進努力(しょうじんどりよく)最後までやりとげよう」です。精進とは精魂込めて物事に取り組むこと。つまり精進努力とは、心を込めて一生懸命努力することです。途中でくじけては、どんな小さなことも実りません。すべてを終わりまで粘り強くやりとげることを、子どものときから習慣づけることが大切だということです。

精進努力というと「大きな目標に向かっていくこと」「大切なのはわかっているけど、自分には出来っこない」と、思ってしまうがちです。しかし、精進努力とは案外、私たちの身近で行われていることだとも思うのです。

苦手な野菜を少しずつでも食べられるようになった。毎日練習して竹馬が出来るようになった。来月開催の「いっしょにあそぼうの日」では協力して何かを作る姿もあるでしょう。これらも立派な精進努力といえます。子どもたちの「やりたい」「面白そう」と思う気持ちがその原動力です。そのような場面に出会ったら、手は出さず、そばで見守ってみてください。私たち大人は、つつい手を貸したくなったり、経験から「こうした方がいいよ」などと忠告してしまいがちです。これは、先回りして失敗という大切な経験を子どもから奪うことです。失敗からわかること、失敗を通して次にどうすれば良いかを考えること、このことが幼児期の大切な学びなのです。子どもを信じて待つあげることも大切です。そして、できた時にはしっかりとほめるというより、一緒に喜びましょう。小さい身近な精進努力が、大きな精進努力の種となるのです。

精進努力を通して身に付ける力は、園で大切にしている非認知能力です。非認知能力は人格形成の根っこにあたる部分であり、しっかりと根がはっていないと、その後に芽がでて、茎が育ち、枝や花や葉が十分に育つことができません。幼児期に精進努力することが、子どもの後伸びする力となるのです。

また、子どもに言うばかりではなく大人である私たちも最後までやり遂げる姿、継続して取り組む姿を見せることができたなら素晴らしいと思います。読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋。秋はいろいろなことに取り組む好季節。自分なりの目標を掲げて日々精進努力したいものです。